

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年度 第 5 回栄養学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事録

- I. 日時:平成 22 年 2 月 19 日午前 11 時 30 分～14 時 30 分まで
- II. 場所:事務局会議室
- III. 出席委員:武藤 志真子(委員長)、中川 靖枝、市丸 雄平、酒井 映子、小野坂 敏見、石崎 由美子、井上 節子、井端 正臣(事務局長)、森下 幸平、恩田 希世子

1. 配布資料

資料1. 平成 21 年 12 月 25 日 第 4 回栄養学教育 FD/IT 活用研究委員会の議事録

資料2. 到達目標 1・2 における到達度を基に、実現するための教育方法、教育内容、講義内容についての ①小野坂先生 ②酒井先生 ③石崎先生 の作成された検討資料

資料3. 栄養学の情報教育 2010 年 2 月 19 日 検討資料

資料4. 『心理学・教育学・コミュニケーション関係学・経済学・経営学・会計学・機械工学・政治学』の各情報教育 検討資料

2. 検討事項

前回、作成を行なった『栄養学の情報教育』の到達目標、到達度の見直しと変更と教育内容・教育方法、到達度確認の測定手段について検討を行った。

到達目標 1

- 1) 最初に情報教育であるため、情報通信技術を利用する文言を挿入する事の提案があった。このため到達度 I の前文に『情報通信技術を利用する』文言挿入を行った。
- 2) 情報教育を『行う、する』と言う文言を使用し、『させる』と言う文言は使用しない事の確認を行った。
- 3) 栄養教育するツールを栄養媒体、教育媒体と言われるが、媒体がわかりにくいので『栄養教材』とする事にした。
- 4) 『演習』と『実習』の使い分けを行うため、③は一定の課題を与え、行うので演習、④は学生が独自に教材作成を行うので実習とした。
- 5) 到達度確認としてレポートではなく、電子媒体で確認する事とした。
- 6) 情報倫理に配慮する事を到達度に新たに挿入を行った。

到達目標 2

- 1) 汎用アプリケーションと栄養アプリケーションを使い分けてソフトを書く。
- 2) 栄養マネジメントに関する総合的な問題解決型学習法(ケーススタディー)を用いた演習

を行う事にした。

- 3) 到達目標の内容から、栄養教育論実習と応用栄養学実習にパソコンが用意されている事が必要であるとの見解があった。
- 4) 『モデリング』の文言について検討を行ったが、わかりやすい『各種事例に対するケアプラン作成』と言う文章に書き改めた。

到達目標 3

- 1) 栄養教育は管理栄養だけでなく、到達目標3の『情報通信技術を活用して、地球レベルでの「食」をテーマとした交流を行うことができる。』の挿入を行った
- 2) 広く目を外に向け、食文化等に関する情報を収集・加工・発信できる姿勢を身につける栄養教育が必要であるとの意見から、教育内容、方法、測定手段の検討を行った。

全体的な検討

- 1) 情報を使って出て来た結果について、専門の知識を活用して結果の妥当性を検証する事が大切であると考えられた。到達目標の中にその内容を挿入する事が検討される必要があるとの見解であった。
- 2) 到達目標1と2の③は同じ内容であると誤解されないか検討した。到達目標2はマネジメントであるので到達度③を置く必要があるが、その違いがわかるように明確化を行った。

今年度の検討は終わり、来年度中に各分野別の情報教育が出てくるので、すべてをまとめ公開して、さらに検討する事になった。

最終作成案は以下のようであった。

『栄養学の情報教育』

到達目標1

情報通信技術を利用して、栄養・食生活と健康・疾病に関する情報を収集・蓄積・分析に活用できる。

到達度

- ① 栄養・食生活と健康・疾病に関する情報の所在、構成、背景を知っている。
- ② インターネットを用いて、栄養・食生活と健康・疾病に関する適正な情報を検索し、選別できる。
- ③ 選別した情報をデータベース化して、統計・解析ができる。
- ④ 多様な情報通信技術を用いて、情報倫理に配慮した効果的なプレゼンテーションができる。

教育内容・教育方法

- ①と②は、情報検索を実施し、関連する Web サイトに接続させ、情報の収集および蓄積方法の演習を行う。
- ③は、問題解決のための情報を表計算ソフトなど用いてデータベース化したものを統計処理し、その結果の妥当性を評価・判定する演習を行う。
- ④は、プレゼンテーションツールを用いて、引用や剽窃などに留意して、栄養教材作成実習を行う。

到達度確認の測定手段

- ①～③は、レポート(電子媒体)、学習支援システムなどにより確認する。
- ④は、栄養教材の作品を学生の相互評価を含め、確認する。

到達目標2

栄養マネジメントに必要な専門的な情報活用ができる。

到達度

- ① アセスメントに必要な基本情報を知っている。
- ② 基本情報をデータ化できる。
- ③ 汎用アプリケーションソフトを用いて解析・評価できる。
- ④ 栄養アプリケーションソフトを用いて、ケアプランを作成できる。
- ⑤ 対象特性別アセスメント・ケアプラン情報を発信できる。
- ⑥ 結果のモニタリング、評価、フィードバックに情報通信技術を活用することができる。

教育内容・教育方法

- ①～③は、栄養データを用いて、汎用アプリケーションソフトを活用できる技術を修得する演習を行う。
- ④は、栄養アプリケーションソフトを用いて、各種事例に対するケアプラン作成を体験させる。
- ⑤と⑥は、栄養マネジメント(栄養アセスメント、ケアプラン、モニタリング、評価、フィードバック等)に関する問題解決型学習法を用いた演習を行う。

達成度確認の測定手段

- ①～③は、実技試験により確認する。
- ④は、作成したケアプランをレポートなどで確認する。
- ⑤と⑥は、ケーススタディについて実技、レポートなどで確認する。

到達目標3

情報通信技術を活用して、地球レベルでの「食」をテーマとした交流を行うことができる。

到達度

- ① 日本および世界の食文化等について適正な情報を収集・加工・発信することができる。

- ② 海外研修や国際会議等に参加し、インターネットなどを通じて継続的な情報交換ができる姿勢を身につける。

教育内容・教育方法

- ①は、インターネット(メール、ブログ、掲示板、ホームページ等)による情報交換に必要な技術や食文化等のデジタル情報を作成する演習を行う。
- ②は、食文化等の交流に関するプレゼンテーションを行い、成果を評価するための体験学習を行う。

到達度確認の測定手段

- ①は、情報技術を活用した食文化等に関するレポート、プレゼンテーションにより確認する。
- ②は、食文化等の交流の成果をレポート、プレゼンテーション等により確認

以上のように最終案が作成された。

3.今後の活動について

来年度は、4月以降に栄養学の情報教育をサイバーFD 研究員に配信し、アンケートを実施する。その後、6月に委員会を開催し、アンケート結果を報告後、意見を反映し、情報教育を完成させる予定である。

以上